

以上をとり、散剤の製法により用時製する。ただし、「ロートエキス」の代わりに「ロートエキス散」を用いて製することができる。

性状 本品は黒色の飛散しやすい粉末で、味はない。

貯法 容器 密閉容器。

複方ロートエキス・ジアスターゼ散

Compound Scopolia Extract and Diastase Powder

製法

ロートエキス	8 g
ジアスターゼ	200 g
沈降炭酸カルシウム	300 g
炭酸水素ナトリウム	250 g
酸化マグネシウム	100 g
ゲンチアナ末	50 g
デンプン、乳糖又はこれらの混合物	適量
全量	1000 g

以上をとり、散剤の製法により用時製する。ただし「ロートエキス」の代わりに「ロートエキス散」を用いて製することができる。

性状 本品は淡黄色の粉末で、味は苦い。

貯法 容器 密閉容器。

ロートエキス・タンニン坐剤

Scopolia Extract and Tannic Acid Suppositories

製法

ロートエキス	0.5 g
タンニン酸	1 g
カカオ脂又は適当な基剤	適量

以上をとり、坐剤の製法により製し、10個とする。

性状 本品は淡褐色の坐剤である。

確認試験

(1) 本品2個をとり、ジエチルエーテル 20 mL を加えて 10 分間振り混ぜて基剤を溶かした後、これに水 15 mL を加えてよく振り混ぜ、水層を分取し、ろ過する。ろ液にクロロホルム 10 mL を加えてよく振り混ぜた後、クロロホルム層を分取し、その 5 mL にアンモニア試液 5 mL を加えて振り混ぜた後、放置するとき、アンモニア層は青緑色の蛍光を発する。

(2) (1) のジエチルエーテル抽出後の水層 1 mL に塩化鉄(III) 試液 2 滴を加えるとき、液は青黒色を呈し、放置するとき、青黒色の沈殿を生じる(タンニン酸)。

貯法 容器 密閉容器。

複方ロートエキス・タンニン坐剤

Compound Scopolia Extract and Tannic Acid Suppositories

製法

ロートエキス	0.2 g
タンニン酸	0.3 g
イクタモール	2.0 g
アミノ安息香酸エチル	1 g
カカオ脂又は適当な基剤	適量

以上をとり、坐剤の製法により製し、10個とする。

性状 本品は黒褐色の坐剤で、特異なおいがある。

確認試験

(1) 本品2個をとり、ジエチルエーテル 20 mL を加えて 10 分間振り混ぜて基剤を溶かした後、これに水 15 mL を加えてよく振り混ぜ、水層を分取し、ろ過する。ろ液にクロロホルム 10 mL を加えてよく振り混ぜた後、クロロホルム層を分取し、その 5 mL にアンモニア試液 5 mL を加えて振り混ぜた後、放置するとき、アンモニア層は青緑色の蛍光を発する。

(2) (1) のジエチルエーテル抽出後の水層 1 mL に塩化鉄(III) 試液 2 滴を加えるとき、液は青黒色を呈し、放置するとき、青黒色の沈殿を生じる(タンニン酸)。

(3) 本品2個をとり、熱湯 10 mL を加え、水浴上で時々かき混ぜながら 10 分間加熱した後、水冷する。上部に生じた凝固物をガラス棒で除いた後、ろ過する。ろ液 5 mL に水酸化ナトリウム試液 5 mL を加えて煮沸するとき、発生するガスは潤した赤色リトマス紙を青変する(イクタモール)。

(4) 本品1個をとり、エタノール(95) 40 mL を加え、水浴上で加温しながら 20 分間かき混ぜた後、水冷し、遠心分離する。上澄液をろ過し、ろ液 1 mL にエタノール(95) 4 mL を加えて試料溶液とする。別にアミノ安息香酸エチル 0.025 g をエタノール(95) 50 mL に溶かし、標準溶液とする。これらの液につき、薄層クロマトグラフ法により試験を行う。試料溶液及び標準溶液 5 μ L ずつを薄層クロマトグラフ用シリカゲル(蛍光剤入り)を用いて調製した薄層板にスポットする。次に 2-プロパノール/酢酸(100) 混液(9:1)を展開溶媒として約 10 cm 展開した後、薄層板を風乾する。これに紫外線(主波長 254 nm)を照射するとき、試料溶液及び標準溶液から得たスポットの R_f 値は等しい。

貯法 容器 密閉容器。

複方ロートエキス・タンニン軟膏

Compound Scopolia Extract and Tannic Acid Ointment

製法

ロートエキス	100 g
タンニン酸	30 g
d-又は dl-カンフル	10 g
イクタモール	100 g
単軟膏又は適当な軟膏基剤	適量
全量	1000 g